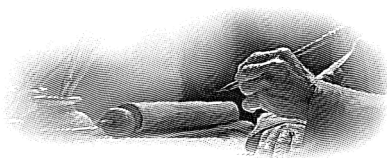


# 2 課

4月11日

## 聖書の起源と性質



安息日午後 4月4日

今週のテーマ

### 暗唱聖句

これらのことを考えて、わたしたちがまた絶えず神に感謝しているのは、あなたがたがわたしたちの説いた神の言（ことば）を聞いた時に、それを人間の言葉としてではなく、神の言として—事実そのとおりであるが—受け入れてくれたことである。そして、この神の言は、信じるあなたがたのうちに働いているのである。（1テサロニケ 2：13、口語訳）

このようなわけで、わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、また、信じているあなたがたの中に現に働いているものです。（1テサロニケ 2：13、新共同訳）

### 今週の聖句

Ⅱペトロ 1：19～21、Ⅱテモテ 3：16、17、申命記 18：18、出エジプト記 17：14、ヨハネ 1：14、ヘブライ 11：3、6

聖書の起源と性質に対する私たちの見方、理解の仕方は、聖書が私たちの人生や教会全体の中で果たす役割に大きな影響を及ぼします。また、私たちがどのように聖書を解釈するかは、啓示と靈感の過程に対する理解によって大きな影響を受け、形作られます。私たちが聖書を正しく理解したいと思うなら、まず最初に、聖書がどう扱われるべきかの基礎的条件を聖書に決めさせる必要があります。私たちは生物学や社会学で用いられる経験的方法を用いて数学を学ぶことはできません。歴史を学ぶのに用いる同じ道具で物理学を学ぶこともできません。同様に、聖書の霊的真理は、あたかも神が存在しないかのように聖書を扱う無神論的方法によっては正しく知ることが、理解することもできません。その代わりに私たちの聖書解釈では、神の言葉を神が人を導いて書いた特徴を真剣に受け止める必要があります。従って、聖書の適切な解釈に必要とされるのは、方法論的懐疑や疑いを持って聖書を扱うのではなく、信仰によって聖書を扱うことです。

私たちは今週、聖書の起源と性質の基礎的側面に目を向けます。それらは私たちの聖書解釈、聖書理解に影響を及ぼすものです。

問1 IIペトロ1：19～21を読んでください。聖書の預言のメッセージの起源について、ペトロはいかに彼の確信を表明していますか。

聖書はほかの本とは異なります。使徒ペトロによれば、預言者は、メッセージの内容を神から受け取る形で聖霊に導かれました。彼らは自らそれを考案したのではありません。聖書の預言のメッセージは「巧みな作り話」(IIペト1：16)ではなく、神に起源があります。それゆえ、真実であり、信頼できるのです。「人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです」(IIペト1：21)。神は啓示の過程で働き、選ばれた人間たちに御旨をお伝えになりました。

神と特定の間との直接的な言葉のやり取りは、聖書の否定しがたい事実です。それゆえ、聖書には特別で神聖な権威があり、私たちは聖書を解釈する際にその聖なる要素を考慮に入れる必要があります。神が究極の著者なので、聖書の書卷は「聖なる書」(ロマ1：2、IIテモ3：15、英訳聖句の直訳)と適切に呼ばれています。

聖書は実用的な目的のためにも与えられました。「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです」(IIテモ3：16、17)。

私たちはまた、神が御言葉の中に啓示されたことを生活に適用するために、聖霊の助けを必要とします。使徒ペトロによれば、神が啓示された神の言葉の解釈は、私たち個人の見解をさしはさむことではありません。御言葉の意味を正しく理解するためには、神の言葉と聖霊が必要なのです。

聖書はまた、「まことに、主なる神はその定められたことを／<sup>しよべ</sup>僕なる預言者に示さずには／何事もなされない」(アモ3：7)と述べています。(さまざまな変化形の)「啓示」に相当する聖書の言葉は、これまで隠されていた何かが今や開示され、それによって知られ、明らかにされたという意味をあらわします。私たち人間は、そのような覆いを取り除くこと、つまり啓示を必要としています。なぜなら、私たちは罪のために神から切り離された罪深い存在であり、御旨を知るのに神に依存しているからです。

聖書が神に起源を持つものであると信じていても、聖書に従うことは、依然として難しいことです。その聖なる起源を信じなくなったり、疑ったりするなら、どのようなことが起きるでしょうか。

神は御旨を人に伝えるために言葉という手段をお用いになるので、神の啓示は書き記すことができます。しかしすでに触れたように、聖書は、聖霊の働きを通して神が私たちに真理を啓示されたことの結果です。聖霊は人間という道具によって神のメッセージを伝え、守られます。それゆえ、創世記から黙示録に至る聖書全巻の中に見られる基本的な一致を、私たちは期待することができるのです（例えば、創3：14と黙12：17を比較）。

**問2 IIペトロ1：21、IIテモテ3：16、申命記18：18を読んでください。これらの聖句は、聖書の靈感について何と書いていますか。**

聖書は全体が神の靈感を受けています。たとえ、すべての箇所が同じくらい読みたいと感じられないとしても、あるいは現代の私たちには必ずしも当てはまらないとしてもです（例えば、ヘブライ人の祭りに関する箇所は靈感を受けていますが、現代の私たちはそれらを守るように要求されていません）。それでも、私たちは聖書全巻から、つまり読みにくく、理解しにくい箇所や、現在の私たちには具体的に適用できない箇所からも学ぶ必要があります。

また、聖書の中のすべてが直接または超自然的に啓示されたものではありません。時として神は、御自分のメッセージを伝えるために、物事を注意深く調べたり、既存のほかの資料を使用した聖書記者を用いられました（ヨシュ10：13、ルカ1：1～3参照）。

その時でさえ、聖書はすべて靈感を受けています（IIテモ3：16）。そういうわけでパウロは、「かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。それでわたしたちは、聖書から……希望を持ち続けることができるのです」（ロマ15：4）と述べています。

「聖書は、神をその著者として指し示す。しかし、それは人間の手で書かれた。そしてその種々の書の異なった文体は、それぞれの記者の特徴をあらわしている。そこにあらわされている真理は、みな『神の靈感を受けて書かれたものであるが、それは人間のことばで表現されている（IIテモテ3：16）』（『希望への光』1591ページ、『各時代の大争闘』上巻（1）、（2）ページ）。

今日、聖書の重要な教えである天地創造、出エジプト、復活を否定するなど、聖書の多くの部分について神が著者であることを認めない聖書学者たちがいます。否定に対して門戸を少しでも開かないことは、なぜ重要なのですか。私たちは神の言葉を批判すべきでしょうか。

問3 「主はモーセに言われた。『これらの言葉を書き記しなさい。わたしは、これらの言葉に基づいてあなたと、またイスラエルと契約を結ぶ』」（出34：27）。神はなぜ、これらの言葉を民に語り聞かせるだけでなく、書き記しなさい、とモーセに命じられたのでしょうか。書き記された神の言葉には、どんな明確な利点がありますか。

人間の言語を創造し、それを話される神は、選ばれた人たちが神から啓示された真理と、神から靈感を受けた思想を信頼できる確実な方法で伝えることができるようになさいます。それゆえ、神が聖書記者たちに、ご自分の命令や啓示を書き留めるように早くから命じられたことがわかって驚くには当たりません。

問4 次の聖句は書き記された啓示について、どのようなことを教えていますか。

出エジプト記 17：14、24：4 \_\_\_\_\_

ヨシュア記 24：26 \_\_\_\_\_

エレミヤ書 30：2 \_\_\_\_\_

黙示録 1：11、19、21：5、22：18、19 \_\_\_\_\_

神はなぜ、御自分の啓示と靈感によるメッセージを書き記すよう、お命じになったのでしょうか。明らかな答えは、私たちがそれらを簡単に忘れないためです。書き記された聖書の言葉は、私たちが神とその御旨に向かわせる不変の判断基準なのです。通常、書き記された文書はより良く保存でき、（何度も語り伝えられねばならない）口頭によるメッセージよりもはるかに信頼できます。書き記された言葉は、繰り返し書き写すことができ、単に語られた場合よりも、ずっと多くの人にそれを知ってもらうことができます。最後に、私たちが一つの場所で一度に話せる人は限られています。書き留められたものは、さまざまな場所、さまざまな大陸で、数えきれない人たちが読めますし、後世の何世代もの人たちにとって祝福となりえるのです。そのうえ、もし人々が自分で字を読めなければ、ほかの人が書き記された文書を読み聞かせることもできます。

問5 ヨハネ1：14、2：22、8：31、32、17：17を読んでください。肉となった神の言ことばであられるイエスと、書き記された神の言葉である聖書との間に、あなたはどのような類似点を見ますか。

肉となった神の言（イエス・キリスト）と書き記された神の言葉（聖書）との間には、一つの類似点があります。イエスは、聖霊によって超自然的に胎内に宿られたものの、女からお生まれになりました。同じように、聖書も超自然的な起源を持ちながらも、人間を通して生み出されました。

イエス・キリストは、時間と空間の中で人間にられました。彼は、ある特定の時代に、ある特定の場所で生きられました。しかしこの事実は、イエスの神性を無効にすることも、彼を歴史的に相対化もしません。彼は、すべての民にとって、世界中において、あらゆる時代を通じて、唯一の贖あがない主です（使徒4：12参照）。同様に、書き記された神の言葉である聖書も、特定の時代に、特定の文化の中で与えられました。イエス・キリストと同様に、聖書は時間的に条件づけられていません。つまり、聖書は特定の時代や場所に限定されません。

神は御自身を啓示する際に、人間のレベルへ降りてくださいました。イエスの人性は、罪を犯す可能性を持っていましたが、罪を犯されませんでした。同様に、聖書の言語は人間の言語であって、限界がありますが、言語と人類の創造主である神は、私たちに誤解を与えない信頼できる方法で御自分の意志を完璧に伝えることができになります。

言うまでもなく、すべての対比には限界があります。イエス・キリストと聖霊は同じではありませんし、聖書は、神が受肉されたものでもありません。イエス・キリストの中の神が人間にられました。私たちが聖書を愛するのは、その中に示されている救い主を私たちが礼拝するからです。

聖書は、比類なき不可分な神と人との結合体です。エレン・G・ホワイトはこのことをはっきりわかっていました。「神から与えられた真理が人間のことばに表現されている聖書には、神的なものと人間的なものとの結合がみられる。このような結合は、神の子であると同時に人の子であったキリストの性質の中にもあった。このように、『言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った』ということは、キリストご自身についてと同様に、聖書についても言えるのである（ヨハネ1：14）」（『希望への光』1591ページ、『各時代の争闘』上巻（2）ページ）。

なぜ聖書が私たちの信仰の基礎でなければならないのですか。聖書がなければ、私たちはどうなるでしょうか。

問6 ヘブライ11:3、6を読んでください。神と神の言葉を理解するうえで、なぜ信仰が不可欠なのですか。信仰がなければ、なぜ神に喜ばれることはできないのですか。

あらゆる真の学びは、信頼（信仰）を背景になされます。子どもが新しいことを学ぶのは、両親に対する彼らの絶対的信頼のゆえです。命と愛の基本的な側面を学ぶように子どもたちを導くものは、信頼関係です。それゆえ、知識と理解力は、愛情のある信頼関係から生じるのです。

同様に、良い演奏者が一つの曲をうまく弾くのは、その人が楽器を弾くための技術を習得しているだけでなく、その音楽や作曲家や楽器に対する愛情を持っているときです。同様に、疑いや方法論的懐疑の態度で聖書を扱うとき、私たちはそれを正しく理解することができません。できるのは、愛と信仰の精神で扱うときです。使徒パウロは、「信仰がなければ、神に喜ばれることはできません」（ヘブ11:6）と書きました。それゆえ、聖書を単なる人間の本とみなすのではなく、その超自然的起源を認めつつ、信仰によって扱うことが不可欠です。

セブンスデー・アドベンチストは、信仰の概要の最初の項目で、聖書の超自然的起源に関するこのような洞察を明確に表明してきました——「旧新約聖書は書かれた神の言葉、神の靈感によって与えられた言葉である。靈感を受けた著者が、聖霊に動かされるままに語り、また書いた。この言葉を通して、神は救いに必要な知識を人間に与えられた。聖書は、最高の啓示、権威ある啓示、神のみ心の誤りのない啓示である。聖書は品性の標準を示し、人間の経験を吟味し、明確に教理を啓示する。聖書は歴史における神のみわざについての信頼できる記録である。（詩編119:105、箴言30:5、6、イザヤ8:20、ヨハネ17:17、Iテサロニケ2:13、IIテモテ3:16、17、ヘブライ4:12、IIペトロ1:20、21）」（『教会指針2015』206ページ）。

人々が信仰的な態度で聖書を扱わないとき、聖書の理解において何を失っていますか。この信仰は、なぜ盲目的ではないのですか。言い換えれば、この信仰を持つべき正当な理由は、どのようなことですか。私たちが聖書の真理を扱うとき、なぜ信仰は依然として不可欠なのですか。



聖書は私たちの信仰に不可欠なものです、もしそれを読み、研究するとき聖霊の影響が私たちの心や思いに及ばないとしたら、聖書だけでは真の霊的価値を持たないでしょう。

「神は、みことばを通して、救いに必要な知識を人間にお与えになった。われわれは、聖書を、神のみこころについての権威ある、まちがいのない啓示として受けとらねばならない。聖書は品性の規準であり、教理を示すものであり、経験を吟味するものである。……しかし、神がみことばを通してみこころを人間に啓示されたからといって、聖霊のたえざる臨在とみちびきが不要になったわけではない。それどころか、聖霊は、みことばを神のしもべたちに開き、その教えを解明して実行に移させるために、救い主によって約束されたのである。しかも、聖書に靈感を与えたのは聖霊だったのであるから、聖霊の教えがみことばの教えと相反するということはありません」（『希望への光』1592ページ、『各時代の大争闘』上巻（3）（4）ページ）。

### 話し合いのための質問

- ① 神はなぜ、御自身と御旨を私たちに啓示なさるのですか。私たちはなぜ、啓示を必要とするのですか。
- ② 神はどのように御自身を啓示なさるでしょうか。神は御自分について何かを啓示するために、さまざまな手段を用いられます。より一般的には自然を通してそうなのですが、より具体的には、夢（ダニ7：1）、幻（創15：1）、しるし（王上18：24、38）、また御子イエス・キリスト（ヘブ1：1、2）を用いられます。神はあなたに、御自身を直接啓示してくださったことがありますか。あなたの経験を分かち合ってください。
- ③ 聖書学者の中には、聖書を単なる神話とみなして、その教えの多くを否定する人たちがいます。天地創造、アダムとエバの實在、出エジプト、ダニエルなどに関する教えは、霊的真理を教えるために創作された話にすぎないと片づけられている（旧約聖書の）数例にすぎません。このようなことは、人間が神の言葉を批判するとき生じます。私たちは、こういう態度がどれほど危険であるかということについて、何を学ぶ必要がありますか。
- ④ 神は説得力のある形で聖書の中に御旨を示されました。しかし、その御旨やイエス・キリストのみによる救いという福音を広めるうえで、あなたの助けを求めておられます。人々があなたを観察するとき、彼らはあなたやあなたの行動の中にどのような神を見るでしょうか。